

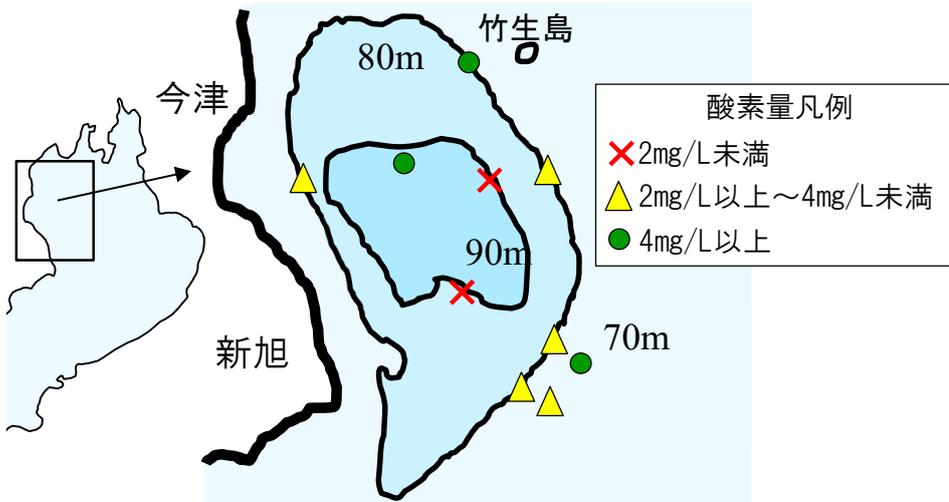
北湖沖合湖底の酸素量とスジエビ等の生息状況

2024年11月26日
滋賀県水産試験場

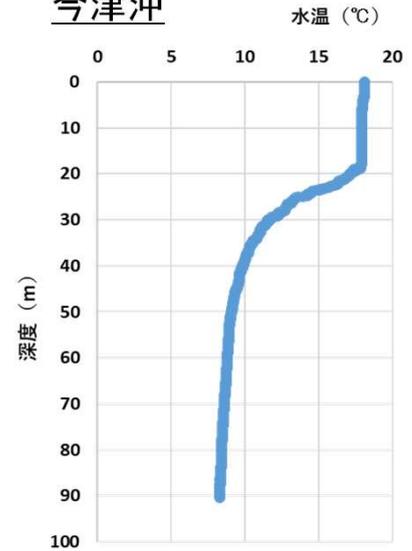
琵琶湖沖合の底層では、秋から冬にかけて酸素量が低下し、2mg/Lを下回るとスジエビなど魚介類の生存や分布に影響を与えることがあります。

そこで、水産試験場や琵琶湖環境科学研究センターが実施した酸素量やスジエビ等の生息状況に関する調査結果をお伝えしますので、操業の参考にしてください。

○湖底等の酸素量(2024年11月11日～15日時点)

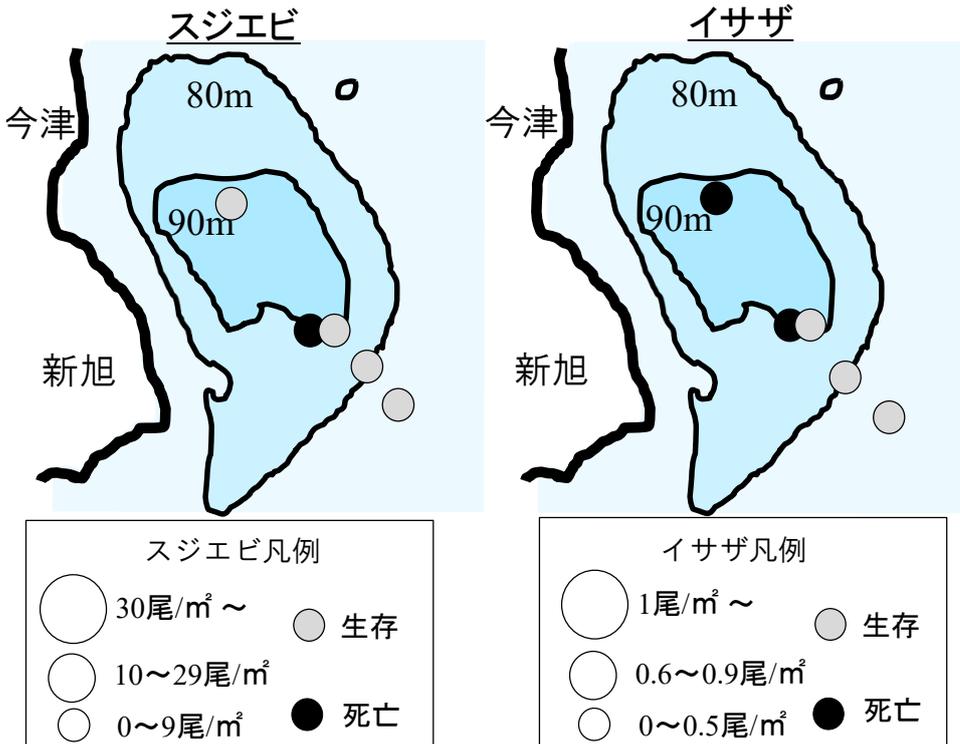


今津沖



- ・湖底直上1mの酸素量は一部の水深90m地点で4mg/Lを上回りましたが、一時的な増加と考えられます。
- ・水温躍層は水面から20m付近にあり、湖底水温は8.3°Cでした。

○スジエビ等の生息状況(2024年11月14日～15日時点)



- ・スジエビ
生存個体が全地点で確認されましたが、死亡個体が新旭沖の90m地点で確認されました。

- ・イサザ
死亡個体は水深90m水域で確認されました。